

# 地域学

高校生が静岡県の魅力を再確認し、その魅力を発信



平成 28 年 10 月

静岡県教育委員会高校教育課

## 目次

目次		i
はじめに		ii
「地域とともに」	伊豆総合高等学校	1
「地域の特徴を活かしたジオパーク学習」	松崎高等学校	6
「富士山麓の文化と仕事」	裾野高等学校	11
「地域で育むグローバリズム」	吉原高等学校	16
「静岡の食材を使ったオリジナル商品の開発」	駿河総合高等学校	21
「地域の課題を考える教科書連携課題研究」	小笠高等学校	26
「春野学」	天竜高等学校春野校舎	31
フィールドワーク（富士山・伊豆半島）参加者感想		36
資料「地域学」推進事業		37
資料 地域協働による景観学習事業		41
資料 第7回日本ジオパーク全国大会 日本ジオパーク伊豆半島大会の様子		42

はじめに

本書は、今後の「地域学」の普及を目指し、参考として頂くために、先進的な取組を実施する県内高校の「地域学」好事例集として作成いたしました。

ここで言う「地域学」とは、人文科学、社会科学及び自然科学の全てにわたり、地域の実際を題材にした生涯学習的な学びと定義できます。具体的には、高校の所在する地域の人、もの、社会、自然などを題材に、知識の深化や伝承、活用、発信などの体験により、地域の事を総合的に学ぶことでしょうか。何れにしても、高校の科目ではないですし、一定のルールも制約もないので、難しく考える必要は全くありません。「地域学」の成果は、生徒が地域を知り、好きになり、誇りに思い、関心を持ってくればよいのです。

では、なぜ「地域学」が必要なのでしょうか。一つには、人口減少時代の事情があります。どこの自治体も、若者が減っていくのを恐れています。地域学を学ぶ事は、生徒達に自分のルーツや生まれ育った環境を認識させることにつながります。そして、彼らに芽生える地元愛、郷土愛は将来の地方創生の生命線となります。また、地元の選挙民の主権者教育にもつながっていきます。地元にいる高校生のうちに、地域の良さや文化、地域資源を学習させることは、地域の要請であります。

二つには、社会のグローバル化によって、海外の人々と関わる時、自分自身のアイデンティティを明確化する必要が出てきます。海外に出ても、自分は生まれ育った地の国民であり、市民です。その地元を知っていて、誇れることは、実は国際人の第一歩であり、外国人とのコミュニケーションに有効なのです。

高校での教育は、単に受験や就職のための準備期間ではありません。国、地域の未来の担い手の青年期の育成を担う大事なステージです。生徒は、出身高校での地域学の学びを忘れる事はないでしょう。その中の何人かが地域の担い手になり、何人かが世界でふじのくにの自慢をしてくれたら幸いです。この冊子を参考に、全ての高校が地域と密接に連携した「地域学」の学習を進めてくれる事を願っています。

静岡県教育委員会高校教育課  
課長 渋谷浩史

# 「 地域とともに 」

## 伊豆総合高等学校における「地域学」の取組

### 1 テーマ

本校では教育目標の1つに「地域社会の産業・文化・歴史を理解し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。」ことを掲げており、地域と積極的な関わりを築いている。学校設定教科「地域学」に「地域と産業」という科目を配置し、総合的な学習の時間、特別活動等においても地域にかかわる活動を展開し、特にジオパーク活動と生徒会活動を主な柱として事業を推進した。

### 2 伊豆総合高等学校の取組

#### (1) ジオパーク活動

伊豆総合高校で取り組んでいるジオパーク活動は、修善寺工業高校と大仁高校が統合する前年、平成21年度の科学技術振興機構のSPP(サイエンス・パートナーシップ・プログラム)事業を利用した活動に端を発している。開校初年度(平成22年)は、自然科学部を中心とした有志生徒の活動として、地元小学校での出前授業や、高校生がガイドを務めるジオツアーを初めて実施し、開校2年目(平成23年)から本格的に学校全体の活動として取り組み始めた。

総合学科1年次の「産業社会と人間」の授業の中で、NPO法人ホールアース研究所の「科学と環境教育プロジェクト出前授業」を活用した「静岡の成り立ち」をテーマとした講演とワークショップを実施した。2年次の「総合的な学習の時間」では研究活動に取り組み、1日かけて伊豆市内のジオポイントを巡るジオツアーにも出かけるなどの学習活動に取り組んだ。「地域学」推進事業の指定を受けて2年目の平成27年度からは、工業科生徒にもジオパークについて学ぶ場を設け、2年生全体で、LHR等での事前学習を経て、200名余りの生徒がジオツアーに出かけた。また、修学旅行では九州を訪れるため、「島原半島ジオパーク」についての事前学習を行い、修学旅行で実地見学し、地域と比較する有意義なものとした。

自然科学部は、伊豆総合高校における「伊豆半島ジオパーク活動」の中心としてそ



の活動を牽引してきた。主な活動は、小中高生から一般の方々までを対象としたジオツアーや小学生を対象にした出前授業の実施、ジオツアーで利用するリーフレットや出前授業の教材となるジオカルタ・ジオスゴロクの開発である。開校時からの取り組みを代々引き継いで、改良・発展させている。



地域学の指定を受けた最近の活動として、伊豆市内の小学校の依頼によるジオツアーと出前授業を実施し、また、伊豆市教育委員会社会教育課主催「ふるさと学級」でのジオツアーのガイドも毎年担当している。

平成 26 年 9 月 27, 28 日には、長野県伊那市で開催された「第 5 回日本

ジオパーク全国大会 日本ジオパーク南アルプス大会」に参加した。総合学科の「総合的な学習の時間」でジオパーク学習に取り組んでいることや、自然科学部を中心に行ってきた出前授業やジオツアーの活動が評価され、開会式において表彰を受けた。また、午後には伊那市民体育館でポスターセッションを行い、ジオツアーやカルタ、スゴロクを使った出前授業について説明した。

平成 27 年 6 月 9～11 日に、伊豆半島ジオパークを世界ジオパークへ認定するかの可否を決定する現地審査が行われ、部長生徒が本校のこれまでのジオパーク活動について、2 人の外国人審査員に対し、英語のパネルを用意して説明したり、ジオ教材の「ジオスゴロク」を英語で進行して体験してもらったりした。また、9 月 19 日に世界ジオパークへの認定可否を決定する国際シンポジウムのパブリックビューイングに参加し、自然科学部と有志生徒が運営スタッフとして模擬店の手伝いなどにも取り組んだ。

静岡県教育委員会が主催する 2 回のフィールドワークにも参加し、11 月の伊豆半島でのフィールドワークでは、運営の手伝いにも携わった。



## (2) 生徒会活動

生徒会主催の「修善寺大掃除」は、平成23年11月に、清掃活動のボランティアを通して「本校生徒を含めた地域住民のコミュニティ再生」をめざして始まった。はじめは、一般生徒に浸透せず、地域の方の参加もほとんどないという状態だった。そこで、校内で、全校生徒及び職員に「1年間で1回は参加しよう」と呼びかけ、参加者には感謝状を発行し、参加者名を活動の写真とともに掲示し、校内放送で参加者名を報告した。地域に対しては、小中学校や、街の商店街にポスターを掲示したり、コミュニティFMに生出演したりして、参加を呼びかけた。

平成27年度、生徒会執行部を中心として「清掃マニュアル」を作成した。これまでの活動を振り返り、道具や荷物の管理やごみの分別について再確認したが、それだけでなく「修善寺大掃除」の目的や目標を共有することに役立った。また、PRについても再検討し、チラシの駅や回覧板への掲示だけでなく、SNSを利用したPRにも取り組んだ。



現在も、毎月1回、主に日曜日の午前中に、修善寺駅前を中心に有志生徒や部活動の生徒が集まって、ごみ拾いをしており、平成27年度末で48回になった。活動を始めた頃に比べ、ごみが減少し、地域の方から「ありがとう」などの声をかけられ、やりがいを感じるとともに、伊豆総合高等学校に関心を持ってくれる人が増え、地域が一体となっていく活動として継続している。

文化祭では、毎年、クラスごとに地域の店や企業と連携し、さまざまな企画を立て、出展している。たとえば、地元特産品を使ったメニューを生徒と店が一緒に考え作成してもらったり、特別に焼いてもらったクッキーに生徒が焼きマシュマロをはさんだり、



地元の有名な商品の特別品を販売したりと、地域企業に提案して文化祭で販売するなど、地域と密着している。

生徒自身が企画し提案することは、生徒が地元企業に目を向け、地元企業にも本校を知っていただく貴重な機会となっている。地域に根ざした文化祭を行うことで、「将来、地域で働き、地域で生きる」ということを身近に捉え、それを生徒自身の進路選択の材料とすることを目指している。



### (3) 修善寺駅の禁煙化



平成26年度、3年生「総合的な学習の時間」で「伊豆地域活性化計画」をテーマに3人の生徒が修善寺駅の禁煙化に取り組んだ。修善寺駅でバスを待つ小学生がタバコの副流煙にむせている姿を見たのがきっかけだった。さっそく、伊豆市健康増進課に問題提起をすると、伊豆市からの要請でバス会社は灰皿を撤去した。しかし、喫煙はなくならなかった。そこで、伊豆市地域公共交通会議の場で、「伊豆の玄関である修善寺駅はきれいな空気を提供する必要がある」とプレゼンテーションし、駅利用者にチラシを配布することを提案した。続いて、修善寺駅から灰皿が撤去されたことや禁煙を呼びかけるチラシを作り、小中学校や本校の児童生徒を通じ、地域の大人である保護者に配布した。そ

して、修善寺駅を利用する方々に直接チラシを配布した。その様子は新聞や市広報でも報じられ、インターネットのYAHOOニュースの全国版にもアップされた。この活動は日本禁煙学会、静岡保健所、ILCAブルーリボン、神奈川県ガン対策課、佐世保市役所保健福祉部健康づくり課、子どもをタバコから守る会（浜松市加藤医師主催）から後押しをいただき、伊豆赤十字病院に生徒が作成したポスターを掲示していただいたり、東部健康福祉センター主催の研修会で活動を紹介していただいたりした。現在、修善寺駅は禁煙が定着している。



### (4) 建築工学科および建築研究部の活動

建築工学科の課題研究では、地域企業や伊豆市とコラボレートした「フォトフレーム作成」や「駅構内等のベンチ作成」などに積極的に取り組み、地域とのつながりを深めている。東京オリンピック自転車競技が伊豆市で開催されることになり、修善寺駅前に設置が計画されたカウントダウンを掲示する「時を刻むボード」の作成を依頼され、現在急ピッチで作業に取り組んでいる。



また、建築研究部では数年前から住宅模型を作成する活動を行ってきた。はじめは地域の個人の家だったが、修善寺温泉にある重要文化財に指定されている古い旅館から製作を依頼され、古い設計図を参考にして、作成している。

### 3 成果

本校は平成22年度に開校したが、開校当時からジオパーク活動に取り組んでいる。平成26年度に、これまでの活動を発表したところ、時事通信社「教育奨励賞」にて努力賞を受賞した。ジオパーク活動においても、これまでの活動を認められ、平成26年度ジオパーク大会において、特別に表彰状を授与された。さらに自然科学部は第5回地域再生大賞優秀賞を受賞した。これらの受賞は本校の活動が対外的に認められた結果であり、大きな成果であるといえる。自然科学部の生徒は自信を持ってジオツアーのガイドを務め、部員以外の生徒の中にもガイドを務めることができる者もいる。

また、生徒会活動も活性化しており、修善寺大掃除を始め、文化祭も地域とのつながりが深い活動を展開している。学校内では経験できない、地域の大人とのかかわりの中で、挨拶をはじめとする社会性や協調性を身につけ、就職や地域での活動に結びついていると感じる。

建築関係では、自分たちが作成したものが地域のシンボルになったり、有効利用されてたりしているため、社会の役に立っているという自己有用感を感じ、さらに意欲的な活動につながっている。

本校生徒の進路は進学から就職まで多岐に渡るが、地元就職する生徒が半数以上を占めている。社会人となってこの地元を支える人材として「地域学」の持つ教育効果は直接的であり、かつ非常に大きいと感じている。

### 4 課題と今後の展望

学校は、生徒や教員が毎年変わっていくため、理念を継承していくことは難しい。特に、中心となって生徒を導いてきた担当教員が異動すると、前年と同じことをすることさえ困難な場合がある。また、これらの活動は生徒の主体性を持って行われることが理想で、教員の指示で行っているはその価値は大きく損なわれてしまう。活動が安定的に毎年行われることは大切だが、それが固定化し受け身的な活動になっていくことは懸念される。また、教員の多忙化が叫ばれる教育活動の中ではあるが、教育課程に明確に位置付け、教員一人ひとりが理念を理解し、さらに組織として活動していくことが大切である。

### 5 平成28年度の実施計画（案）

- 1年総合学科 「産業社会と人間」において、外部講師によるジオパークについての講義およびその事前事後学習
- 2年工業科 LHRで、外部講師によるジオパークについての講義およびその事前事後学習
- 2年全員 伊豆半島ジオツアー及び修学旅行において島原半島ジオツアー
- 3年総合学科 地域をテーマにチームまたは個別の研究
- 全校 生徒会による「修善寺大掃除」
- 工業科（建築工学科） 地域からの依頼された工作を継続、発展



# 地域の特徴を活かした ジオパーク学習

## 松崎高等学校における「地域学」の取組

### 取り組みにおけるテーマ

松崎高校は「西豆（※）の子は西豆で育てる」の合言葉の下、地域の3中学校との連携型中高一貫教育や地域性の高い教育を行っています。このような活動の一環として、地域の資源や人材を活かしたジオパーク学習に取り組んでいます。住んでいるだけでは気付くことができない地域の魅力を発見し、発信していくことをテーマにしています。

※西豆（さいず）・・・伊豆半島西部地域、特に松崎町と西伊豆町を指します。



### これまでの取り組み

#### 1 授業での取り組み

#### ジオクッキング（地学基礎）



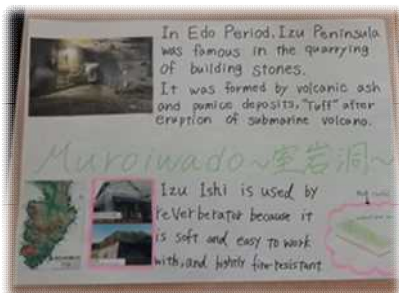
身近な地形を料理で表現しました。地元の美しい景色について調べ、どうしてその景色が作られたかを料理を通じて学ぶ活動です。

## 野外授業（地学基礎）

教室での授業だけでなく、ジオパークビジターセンター（松崎町）や堂ヶ島（西伊豆町）を訪れ、地域の特徴にスポットを当てた授業を行っています。



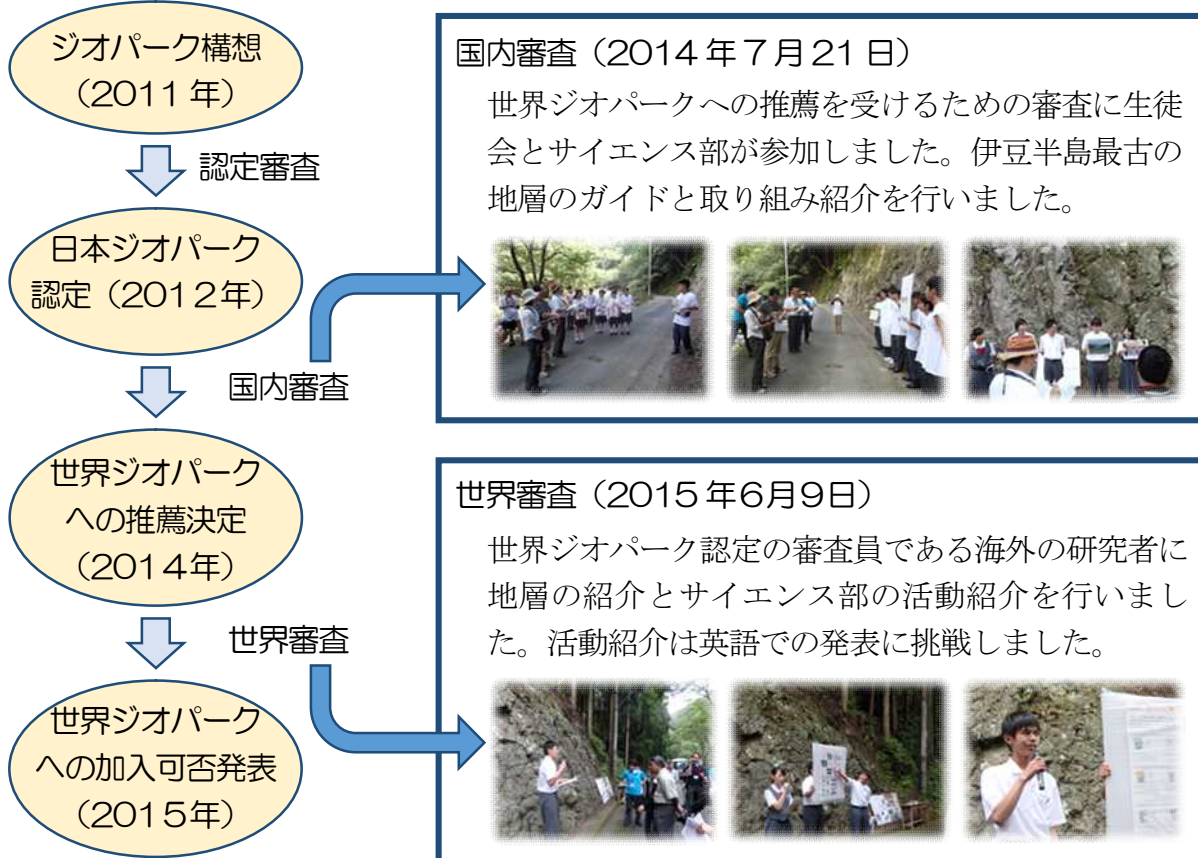
## 地域の魅力を発信（コミュニケーション英語Ⅰ）



身近にある誇れる場所を紹介するミニポスターを作成し、英語で発表しました。パソコンを使って調べたことを英語にし、プレゼンを行いました。

## 2 ジオパークの審査でのガイド活動

《伊豆半島ジオパークの認定の流れ》



### 3 地域学習活動

#### 棚田学習（総合的な学習の時間）

総合的な学習の時間の一環で、毎年1年生が春と秋に松崎町石部地区の棚田で棚田実習を行っています。地元の方の協力の下、畦塗りと脱穀作業を体験します。また、サイエンス部は棚田のオーナーとして田植え、稲刈り・稲架掛けも行っています。



#### • 畦塗り（あぜぬり）

田んぼの土手に土を塗り固める作業。土手のヒビ割れや穴あきによる水漏れを防ぐ効果があります。



#### • 稲架掛け（はざかけ）

刈り取った稲を竹の竿にかけて天日干しする作業。竹の竿を組んで馬を作り、稲穂を乾燥させてから、脱穀作業を行います。

#### サイエンス部の野外学習

サイエンス部は月に1回、野外学習として様々なところに出かけています。西伊豆地区だけではなく、下田市、伊豆市などで伊豆半島の成り立ちについて学習しています。



#### ← 爪木崎～白浜神社（下田市）

溶岩が固まる際に生じた柱状節理や、白浜地区の地域信仰と火山の関係について学びました。

#### 室岩洞（松崎町）→

海底に降り積もった火山灰が固まってできた「伊豆石」の採掘現場であった石丁場がかつての地域産業を学びました。



#### ← 雲見（松崎町）～奥石廊（南伊豆町）

雲見の烏帽子山の成り立ちと浅間神社にまつわる神話、伊豆半島沖地震や各地に残る断層について学びました。

#### 達磨山ハイキング（伊豆市）→

大型陸上火山の噴火によって作られた大地の学習や天城連山の同定をガイドと一緒に行いました。



## 4 地域貢献

### 枕状溶岩保全活動

西伊豆町一色地区には伊豆半島で最も古い地層の一つである「枕状溶岩」が存在します。この地層は、伊豆半島が南海の海底火山であったことを示す重要な証拠です。サイエンス部では、整備活動を行うだけでなく、パンフレットを作成して広報活動も行っています。また、部活動だけでなく、新規採用教員の地域研修の一環としても、保全活動が行われています。



研究者からの説明



地層の整備



近隣の地形学習

**ジオ景子はいかが?**  
枕状溶岩がクマミに  
なっちゃうよ!

**クイズ**

- 枕状溶岩になる前の溶岩はどのような形で流れているのでしょうか?
- マクヨ〜は何歳でしょうか?
- 伊豆を中心に買えるジオ景子はなんという名前でしょうか?

**～枕状溶岩への行き方～**  
西伊豆町 一色地区  
石橋を渡って細い道に入ります  
道案内看板を右側に見ながら直進し、交差点から約4km 車で約7分ほど

**枕状溶岩**  
～西伊豆町一色～

企画・製作  
静岡県立松崎高等学校 サイエンス部  
監修  
門田 直人  
静岡県立の森 地球博物館 自然科  
伊豆半島ジオパーク推進協議会  
協力  
一色枕状溶岩ジオサイト保全協議会  
ジオサイト実行団

多くよー  
さんでござい  
ます。お名前も  
覚えてくださいね  
伊豆半島ジオパーク  
IIZU PENINSULA GEOPARC  
ようこそ!

枕状溶岩全体図 この中で眠るはくつくところを寝してみよう!!

**枕状溶岩とは**  
Pillow Lava

傾斜角の弱い溶岩は、トップが固くなって側面が流れます。その断面は寝がけのようになり、そこから枕状溶岩と呼ばれています。一帯で見られる枕状溶岩は、伊豆で一番古いもので、2000万年程度に作られました。

**～枕状溶岩のでき方～**

1. 溶岩が流れてくる  
2. トップが固くなる  
3. 側面が流れてくる  
4. 寝がけのようになる  
5. 寝がけの溶岩が流れてくる

枕状溶岩ジオパーク  
実行団

枕状溶岩のことを伝えるパンフレットを作成

### なまこ壁クリーニング活動

松崎町は「棚田」「なまこ壁」「さくら葉」で「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。松崎高校生徒会では町の企画観光課やNPOと共に、毎月第2土曜日になまこ壁クリーニング活動を行っています。

「なまこ壁」は、建物の壁に漆喰をかまぼこ状に塗り付けた工法で、塗られた漆喰がナマコのように見えることに由来しています。なまこ壁は耐火性に優れることから以前は数多くみられていましたが、維持管理の問題で現在は少なくなりました。なまこ壁を後世に残していくことが、今後の課題になります。



## 中高合同ジオパーク学習会

松崎高校は平成 20 年度より松崎町立松崎中学校、西伊豆町立西伊豆中学校、同町立賀茂中学校と連携型中高一貫教育を行っています。その中での活動の一環として毎年 1 回中高合同ジオパーク学習会を開催しています。自分たちの住む地域を知る活動や、伊豆半島について学ぶ活動を行っています。



丹那断層と地域産業を学ぶ(函南町 2014年3月)



松崎で採れる化石を学ぶ(松崎町 2014年12月)



陸上火山の地形を学ぶ(伊東市 2016年3月)

## 5 これまでの成果

### 高校生ひらめき・つなげるプロジェクト入賞

松崎高校サイエンス部は 2014 年と 2015 年に静岡県教育委員会主催の「高校生ひらめき・つなげるプロジェクト」で入賞しています。このプロジェクトは、高校生による地域振興のアイデアを募集や実践を評価するものです。サイエンス部のジオパークに関わる地域貢献活動が評価されました。



～高校生ひらめき・つなげるプロジェクト受賞歴～

- 2014年 アイデア実践部門 優秀賞 枕状溶岩パンフレットの作成(前頁中段)
- 2015年 アイデア実践部門 教育長賞 ジオパーク活動による地域振興

### シンポジウムでの活動発表

2015 年 9 月に鳥取市で行われたアジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムで、これまでの活動をポスター形式で発表しました。国際シンポジウムということで、全ての発表は英語で行っています。



ポスター発表を前に



海外研究者に英語発表



鳥取砂丘について学習

# 「 富士山麓の文化と仕事 」

## 裾野高等学校における「地域学」の取組

### 1 テーマ

- (1) 富士山は、火山活動や崩落、土石流など大規模な災害が発生する可能性を持っている一方、湧水や天然資源を提供する「恵みの山」でもある。こうした富士山の二面性に注目し、地図や現地調査を活用した実践的な学びの場として研究する。
- (2) 富士山の「里山」としての機能に注目し、暮らしと仕事の場として関わってきた先人の取り組みと、現代の課題解決と地域のために奮闘されている方々の仕事に着目し、地域の魅力を発信し、自らのキャリアを切り開ける人材の育成を図る。

### 2 裾野高等学校の取組

- (1) 大規模災害の現状と復興（宮城県栗原市：「栗駒山ジオパーク」の視察）

（平成 26 年 8 月）

- ・大規模な地すべり災害を経験し、崩落跡地を「ジオパーク」として整備して観光資源とする取り組みを視察するため、生徒 2 名、引率教員 1 名を派遣し、報告会を行った。



- (2) 総合学習「キャリアアップ・セミナー」で連続講話
- ・活火山としての富士山（常葉大学：嶋野 岳人准教授）  
（平成 26 年 5 月 11 日）
  - ・富士山の研究とジオパーク教育について  
（静岡大学小山真人教授）（平成 26 年 9 月 10 日）
  - ・富士山の野生鳥獣害と「ジビエ料理」による地域活性化  
山梨県ジビエ活用協議会会長 滝口 雅弘氏  
（平成 26 年 11 月 17 日）



- (3) フィールドワーク
- ・世界文化遺産「富士山」をめぐる現状と課題  
（平成 27 年 8 月 28 日）
  - ・訪問先：須山浅間神社  
裾野市立富士山資料館  
裾野市役所須山支所（大会議室にて、地域の NPO  
関係者とワークショップ）  
耕作放棄地再利用地の見学



- ・世界灌漑施設遺産「深良用水」と深良地区の農業振興
- ・平成 27 年 12 月 4 日（参加生徒 6 名）
- ・訪問先：芦ノ湖（深良用水取口）→用水出口  
JAなんすん富岡支所（耕作放棄地でのソバ栽培と加工場見学）



（4）地域の特徴を生かした展示  
文化祭での防災地図展示（郷土研究部）（平成 26 年 6 月 1 日）





講演会をきっかけにした「ジビエ料理」の調理と文化祭模擬店での販売（鹿カレー）  
（平成27年5月31日）



<高村 謙二裾野市長も試食>

### 3 これまでの活動の成果

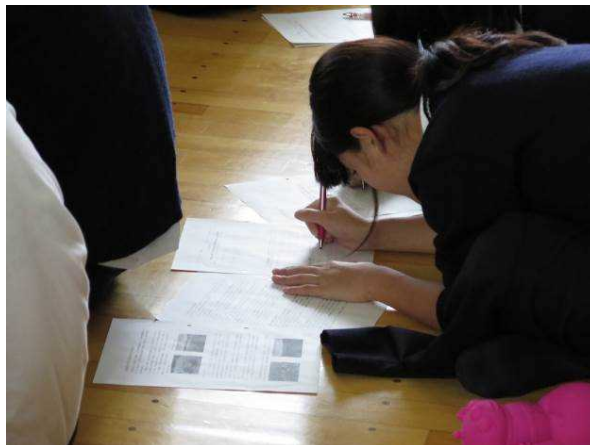
- ・講演会、フィールドワークを通じて、学校と地域のつながりを深めることが出来た。
- ・仕事で富士山に関わる方々の話を直接伺うことで、地域に密着した仕事について理解を深めることが出来た。
- ・フィールドワークや地域活性化を研究することに強い興味を持った生徒が関連する大学を受験し、AO入試で合格することが出来た。
- ・市内唯一の県立高校として、地域との連携を深め、教員と行政職員、企業関係者との連携を深めることが出来た。

### 4 今後の課題

- ・研修や学習活動で得られた知見や資料を冊子やデジタルガイドにまとめ、学校の内外の人たちに発信していくための方策を検討していく必要がある。
- ・古写真や古地図など、郷土資料として所蔵されている資料が多いので、それらを教材化して、小中学校との連携を踏まえた総合的な学習環境を作っていく必要がある。
- ・生徒の自主的な活動を支援し、生徒自身がテーマを見つけて研究し、情報発信をしていけるような体制を作っていく必要がある。
- ・総合的な学習の時間や単発のイベントだけでなく、総合学科の学校設定科目として「地域学」を位置づけ、年間指導計画と評価基準に基づいた授業を展開する必要がある。

## 5 平成28年度の実施計画（案）

- 4月 学校設定科目「静岡県の歴史」開講      テーマ設置と年間指導計画の策定
- 6月 学校祭 郷土研究部の地域学関連発表
- 7月 「静岡県の歴史」受講者によるフィールドワーク  
学校後援会会合で生徒による成果報告
- 8月 静岡県総合学科研究大会（会場：裾野市文化会館）での発表と、来場の高校生を対象としたフィールドワーク（案内に本校「静岡県の歴史」選択者）
- 9月 2年生「キャリアアップ・セミナー」（総合的な学習の時間）で「地域学」連続講座開始（全3回）
- 12月 生徒対象「地域学フィールドワーク」実施
- 2月 年間報告会実施



# 「地域で育む

# グローバルズム」

## 吉原高等学校における地域学の取組

### 1 テーマ

「地域で育むグローバルズム」

### 2 吉原高等学校の取組

#### (1) 英語の実践活用

##### ア 英語通訳ボランティア

(経緯と活動内容)

富士山が世界文化遺産に登録され、新富士駅利用の外国人観光客が急増した。遠方からの玄関口である東海道新幹線新富士山観光交流ビューローでは案内をするスタッフが不足しているとのことであり、国際科生徒に補助員としての参加が依頼された。

国際科の生徒は、普通科より英語の単位数が多く、外国人指導講師との授業やオーストラリアでの海外異文化体験研修等を通じて英語コミュニケーション能力の向上だけでなく、国際感覚を磨く経験を積んできた。学習の成果を実践的に発揮する場も校外に必要であること、富士市の魅力を再確認できること、地域に貢献する人材育成という視点でも良い契機となることから、協力することとした。

活動内容は、観光案内所の職員の指導の下、外国人観光客に観光案内のパンフレットを手渡したり、目的地の情報や交通手段などのコミュニケーションを通して、英語の実践活用力を高めることができた。



## イ 小学校での英語指導

### (経緯と活動内容)

富士市内の小学校教員から、小学校における外国語活動に国際科生徒の参加が依頼された。国際科には、外国籍の生徒、一年間の留学をした生徒、海外からの留学生も在籍していること、教員志望の生徒もいること、明るく、物おしせず人前で話したり歌ったりすることができる生徒も多いこと、小学校で英語教育が導入されることから参加することとした。

クリスマスに関する歌や英語の紹介、外国のお礼や挨拶の紹介などを行った。思った以上に楽しくできたという生徒もいたが、小学生の学力差に対応できず反省を口にしていた生徒もいた。いずれにせよ、日ごろ教わる側の生徒が教える側になり、改めて教え・教えられることの難しさや楽しさを味わえたようであった。

生徒だけではなく、我々教員も新教育課程編成を視野に、小学校でどのような英語教育が展開されるかを知るための良い機会となった。



## (2) スウィーツビジネスプロジェクト

### (経緯と内容)

平成26年度、「富士市の魅力と企業理念」をテーマに中小企業と起業家の取り組みを学ぶことを目的として行った。希望生徒10名は夏休み等を利用して富士市産業支援センター・f-biz(エフ・ビズ)で、商品開発、価格・販売個数など決定する要因を学び、「みんなが食べたい洋菓子を作ろう」という課題のもと、絵コンテなどを使って考案したスウィーツを地元企業が商品化した。また、接客態度なども研修し、富士山メッセで開かれた「ファッション&グルメ マツザカヤフェスタ in いじさんめッセ」において、抹茶味をベースに合格祈願をイメージしたケーキなど3商品を3日間で合計360個を完売した。

このプロジェクトを通して、経済・流通の仕組みを学ぶことができたこと、スウィーツの特色化を検討するとき、抹茶や富士山のように地域の魅力が重要な資源となる経験を通し、地域の活性化の一要因の学ぶことができた。



### (3) 外国人児童学習支援ボランティア (経緯と内容)

富士市は製紙会社を中心に、大手企業が立地する工業の街であり、外国人労働者が就労し、暮らす多文化共生の社会でもある。そのため、外国籍児童も多く生活しており、言葉や教育が問題となる。言葉が分からないため学習が遅れ、そのために疎外感を持ち、社会に適應できない児童生徒もいる。「エスコラ・フジ」(ブラジル人学校)での活動に国際科生徒の依頼があった。

活動は、年間を通じて週末に活動するものと夏季休業中の7月から8月に短期で活動するものがある。母語が日本語でない児童に、国語や算数を日本語で使って教える難しさに気付き、地域の現状を考える契機になっている。また、静岡県立大学国際関係学部 高畑 幸 准教授の指導のもと、学校法人ムンドデアレグリア(浜松市)の文化祭、大井川町公民館で開かれた「しゅくだいひろば」にボランティアにも参加した。卒業後の進路選択では日本語教師や、国際関係(地域貢献)の分野に進む生徒もいる。



#### (4) フジヤマピロシキプロジェクト

(経緯と内容)

日本の友好関係を求め、下田港に入港したロシア軍艦「ディアナ号」は、1854年11月4日安政の大地震に遭った。津波により大破した船の修理のために戸田港(現沼津市)に向け出港したが、嵐により宮島村(現富士市田子の浦地区)沖に遭難した。船員500名を地元の方々が救助した経緯から、ロシアとの交流があった土地柄である。また、本校国際科の生徒がこの歴史を絵本にまとめ、「ディアナ号がやってきた」を編集した。

富士市とロシア友好の架け橋となるべく、ロシアの伝統的料理「ピロシキ」に地元産シラスを入れたレシピを開発し、「フジヤマピロシキプロジェクト」をスタートさせた。現在もこのプロジェクトは継続されており、市内のイベントや文化祭においてピロシキが販売されており、本校生徒もボランティアとして参加している。

地域の新鮮で食材をロシアの伝統的料理とコラボレーションさせ、地産地消による地域活性化していく一つの視点を学ぶことができた。



### 3 課題と今後の展望

本校の最大の特徴は、静岡県東部地区公立高校で唯一の国際科設置校であることである。また、長年女子教育の中心を担ってきたため、本校の卒業生が地元に残り活躍されているネットワークを最大限活かし、地域の方々に支えられ様々な地域貢献活動に取り組んできた。共通しているテーマが「多文化共生社会で活躍できる人材育成」である。

さらに、人口減少社会の到来が叫ばれる現状において、地域を担う若者の定着は大きな課題である。地域の魅力を再発見・再認識し、Uターン思考を高めるに留まらず、その魅力を活かし、思考はグローバルに、行動はローカルに、いわゆる「グローバルな人材」を育成する地域の活動にも取り組んできている。

しかし、課題もある。第一に、継続性と体系化である。ネットワークの広さという利点を最大限活かしボランティア活動に取り組んできたが、担当した職員の異動や協力していただいていた機関の状況の変化などにより、途絶えてしまった活動も少なからずある。

具体的な取り組みとして、まず、吉原高校国際科の生徒に、3年間でどのような資質を身に付けられるか、学校全体としての共通理解を作ることである。共通理解、目指す

生徒像ができることにより、年次進行によりどのような力を積みあげていくべきかが明確になり、評価も行える。次に本校担当者間での引き継ぎと、教員一人が抱えることなく複数の教員で担当することである。そして活動に係る資料を共有できるよう、保管を一元化することである。

第二に、ボランティア活動レベルからの脱皮である。英語通訳ボランティア、フジヤマピロシキプロジェクトなど活動後の生徒の感想は、「やってよかった」など一定の評価はするものの、その経験が高校での学習活動における主体性の向上に繋がっていない現状がある。ボランティア活動を通して感じた疑問、矛盾を解決するために、高校での学びに結びつけて考える「体験→課題把握→課題設定→課題解決」という新たな学びに繋げることが重要であり、新学習指導要領の中心を成すであろう「アクティブ・ラーニング型学習」である。

今年度、地域学推進事業指定を契機とし、「どのような人材を育成するのか」問いながら、次年度以降も行える継続性の高いものに変換していくことが重要である。具体的な取組として、まず、これまでの活動を一層体系化すること、次に今年度1年生より1人(1グループ)1課題を設定し、(卒業)論文作成を計画していきたい。

地域の魅力を存分の発信し、地域の課題を立ち向い、グローバルな思考ができる人材の育成を目指したい。

#### 4 平成28年度の実施計画(案)

##### (1) これまでの取組の体系化

項目	1学期	夏休み	2学期	3学期
校外活動	外国人児童学習支援	外国人児童学習支援 学童保育支援 英語通訳	学童保育支援	
外部人材活用			富士山日本語学校 校長講話	
成果物		観光案内リーフレット(暫定版)		観光案内リーフレット(完成版)

##### (2) 課題研究(1年生対象)

内容	1学期	夏休み	2学期	3学期
課題研究・論文	興味関心による分野の検討	調査 調べ学習	テーマの検討	調査 調べ学習 下書き開始

高校生の力で地域の魅力“再発見”

## 静岡の食材を使ったオリジナル商品の開発

駿河総合高等学校における「地域学」の取組

### 1 平成 28 年度 重点テーマ

「学校所在地“駿河区”の魅力を調査研究し、県内外に発信する」

これまで、地元静岡に貢献するために静岡県の魅力について調査研究を行い、特産品を使ったオリジナル商品を開発しました。しかし課題は多く、商品化までの道のりは容易ではありませんでした。各企業担当者のアドバイスを受け、試作品に改良を重ね、商品の完成へこぎつけましたが、試食アンケートでは、多くのご意見をいただきました。

ここでは、今までの商品開発における試行錯誤の様子や課題と反省について報告するとともに、完成した商品の紹介と販売実習の報告、今後の課題と平成 28 年度の取り組みについて紹介します。

### 2 平成 27 年度までの取組状況

#### (1) 背景

駿河総合高等学校は、再編統合により平成 25 年 4 月に誕生しました。学校の特色を考えた時、

- ① 駿河区唯一の公立高校であり、市内唯一の総合学科高校
- ② 静岡市立商業高等学校と静岡南高等学校の良さを引き継ぐ
- ③ 地域の活性化に向け、若者(高校生)から発信する

上記の3つを柱に取り組みむことができれば、と感じていました。

その1つとして「駿河WANプロジェクト」が提案されました。WANとあるのは、文字通り1つは駿河湾のWAN【湾】ですが、あえてWANと用いているのは、広域ネットワーク(WAN)とかけてのことです。

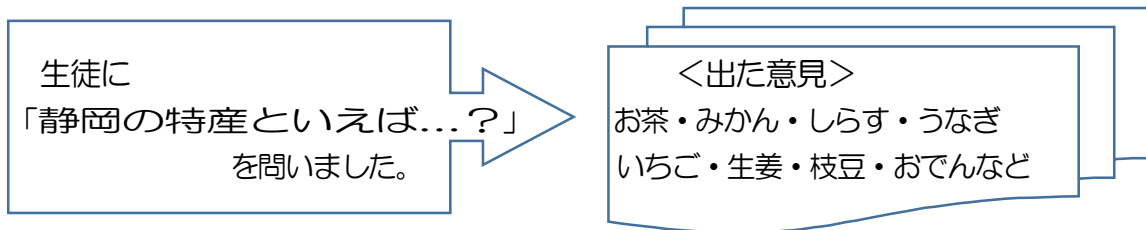
現在、このプロジェクトでは、今までに学んだ知識を活かし、地域に貢献しようと、「オリジナル商品開発」や「インバウンド観光」に着眼し、取り組んでいます。先ごろ、キャッチコピーも生徒から「静岡の魅力 再発見! 駿河WANプロジェクト」が提案され、高校生の力で、地域と共に静岡の魅力を発信していこうと考えています。



## (2) 方法

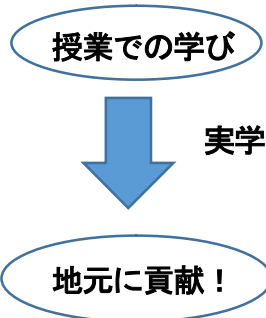
＜静岡について考えました。＞

2年次の「総合的な学習の時間」において“静岡研究”を行い、地域に対する基本的な理解をした上で、



続いて、それら特産品を使ったオリジナル商品の開発を行うことにしました。

## (3) 取り組み



### ＜オリジナル商品の作成＞

課題研究、商品開発の授業において生徒から「地元静岡をアピールするオリジナル商品」を募集し、100 を超すアイデアが集まりました。集まったアイデアを県内の各企業に見ていただき、アドバイスをもらいました。アドバイスをもとに改良を重ね、市販できそうなアイデアについては、試作品を作成してもらうことができました。

## ＜アイデアの一例＞

和菓子：お茶みたらし団子、お茶マフィン、お茶クッキー、ラムネケーキ、紅茶エクレア

飴関係：紅茶味、スポーツドリンク味、トマト味、コーヒー味、麻婆豆腐味、涼夏飴

土産類：わさび味噌饅頭、静岡つめこみ大福、いちごの形のいちごケーキ、プリン大福、シークレット饅頭（お茶の饅頭の中に同色のわさび饅頭を入れる）

弁当類：富士山や駿河湾をイメージしたもの、キャラクター弁当など

↓  
＜出来上がった商品の一例(写真)＞



御茶らしだんご

お茶クッキー

茶フィン

富士山スポーツ弁当

キャラ弁

#### (4) 実践

##### 【開発依頼】ロリエ常盤屋（静岡市）

###### 開発商品

- ・“染ちゃん”の御茶らしだんご
- ・甘さ控えめ、大人のクッキー“お茶キー”
- ・茶品（お茶のマフィン）

###### 商談の流れ

- ・アイデアシートに記入（約100案）
- ↓
- ・企業に提出（試作品の作成）
- ↓
- ・試作品によるアンケート調査（試食）
- ↓
- ・3回ほど改良を加え、完成（販売）

販売実習場所：駿府城天守閣再現<sup>®</sup> D'ICE

##### 【工場見学】杉本製茶（島田市）

島田市出身の生徒が地元企業に交渉  
お茶の詰め放題（を企画）

・仕入諸掛原価（材料費・送料等）から売価を計算する・・・500円

↓

・販売計画

売り方、試飲（お茶の淹れ方）の研究

↓

・訪問実習

販売方法やお茶の淹れ方（※）、試飲について指導を受けた。

また、工場を見学し、製造工程を学ぶ。

##### 【販売実習の一例】10月10日「草薙運動場まつり」

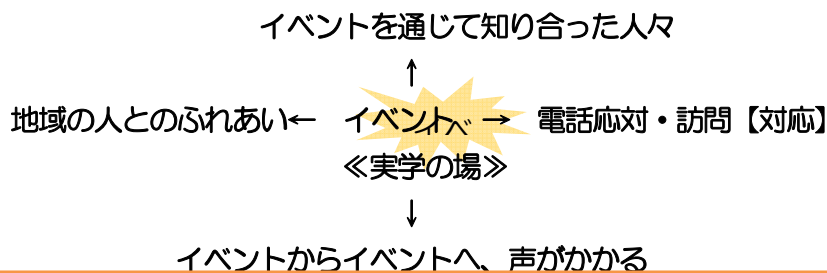
<参加者の感想・反省、課題>

団子、弁当、マフィンの売れゆきは好調でした。お茶の詰め放題を初めて行いましたが、お客さんの足を止めるために、販売手法を変える必要があると感じました。



#### (5) 考察

<波及効果>



商品開発にあたり、様々な課題が浮かび上がりました。1点目は、ロット、原料、加工など様々な課題があり、試作品を作ってくれる会社が見つげにくい点です。2点目として、学校は原則、商品の販売先を持っていないため、販売先を確保するのが大変という点です。3点目に、静岡県の特産品としてあげたお茶・みかんなどは他県にもあり、それらを使った類似商品が存在する点です。

これらのことから、地域の特産品を商品化し販売に至るのは容易ではありませんでした。しかし、課題をクリアするために生徒と共に取り組むことは意義があり、その過程で知り合った多くの地域の方々との交流は糧となっています。

### 3 平成 28 年度の展望

#### 「静岡のお茶に着目」

#### 丸子地区の茶畑（農作放棄地）を高校生のアイデアで活用できないか？

5月20日、丸子まちづくり協議会の方々及び農協の茶業関係の部会で、平成28年度に駿河総合高等学校として取り組みたい内容について、福祉専門委員長・副委員長が会議に出席し、プレゼンテーションも行いました。

最初に、静岡は県別ではお茶の生産量が1位であるが、市町村合併の影響により市町村別では南九州市に抜かれたことを指摘しました。そこで「茶処静岡」をアピールするために、是非とも1位に返り咲いて欲しいという気持ちを込め、様々な取り組みを展開していることを伝えました。例えば、「お茶を飲まない」「お茶といえばペットボトルの商品で十分」「自宅に急須が無い」など若者のお茶離れが叫ばれている中、「どうしたら良いか」を調べるために、日本茶コーディネータや静岡市茶業振興課などにインタビュー調査を実施したり、日本茶講座を開催したことなどです。

次に、静岡市駿河区丸子地域では、茶の流通量の減少と高齢化の影響が相まって農作放棄地（荒れ果てた茶畑）が増えている事実を指摘し、その有効な利用法について、いくつかの提案をしました。それらについては、若者が考えてくれることを評価したいという声を頂きました。

これらの結果、本校の取り組みに賛成していただき、古くから梅の産地でもある丸子をアピールするために梅の提供をしてもらえるなど、訪問によって一歩前進することが出来ました。

今後は、後述する丸子紅茶や長田の桃などの取り組み内容とあわせて、駿河区地域の活性化に取り組んで行く予定です。

#### <今後の流れ>

- 5月 丸子まちづくり協議会訪問
- 6月 長田の桃見学、相談
- 7月 オリジナル商品の開発
- 8月 研修（調査のまとめ）
- 9月 オリジナル商品試作
- 10月 ふじのくに実学フェスタにて販売
- 11月 反省と課題
- 12月 報告書作成

#### お茶生産量 2014年データ

##### 《県別》

1. 静岡県
2. 鹿児島県
3. 三重県

##### 《市町村別》

1. 鹿児島県南九州市
2. 静岡県牧之原市
3. 静岡県島田市

茶処静岡を広めるオリジナル商品を生み出し、学校や静岡をアピールしたいと考えまし

## <取り組み内容>

これまでは、静岡県、特に中部地区や静岡市を活動フィールドに各種活動を行ってきました。しかし、平成28年度は、学校の所在する駿河区を重点ポイントとして、登呂遺跡や丸子宿など歴史ある駿河区の魅力について、地域の方々と研究していきます。中でも、長田・丸子地区（駿河区）においては、様々な活動をしている地域の方がいます。今年度は、お茶に加え、以下の内容に取り組んでいきたいと考えています。

- ①丸子紅茶・・・国産紅茶発祥の地、丸子を盛り立てようと、村松二六氏が、静岡県産の紅茶の開発に取り組んでおり、本校との連携についても協力していただけるとのことです。今までとは違う紅茶の活用を考えていく予定です。
- ②西川農園・・・ジャボチカバ（フトモモ科の常緑高木で、<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%A9%E3%82%B0%E3%82%A2%E3%82%A4> ボリビアなどが原産地）という、木に直接なる果物を栽培している茶農家の西川さんの協力により、ジャムづくりやオリジナル商品開発を行う予定です。
- ③長田の桃・・・長田地区は、明治30年頃から栽培が始まっていたという記録が残る伝統的な桃の産地です。また、全国でも一、二の早さで桃の出荷をはじめること知られています。（品種は日川白鳳、さおとめ、はなよめ、暁星、白鳳など）これらをPRするための販売実習や、桃の特徴を活かしたオリジナル商品を開発する予定です。



丸子紅茶



ジャボチカバ



長田の桃

# 「地域の課題を考える教科連携課題研究」

## 静岡県立小笠高等学校における「地域学」の取組

### 1 概要

地域の抱える課題（人口減少）について、農業・工業・商業の各系列の生徒が課題研究を通して考える。小笠高校がある菊川市内を学びのフィールドにし、何を調査するか、誰に聞くかなど生徒が主体的に考え、それを教員が支援をする。各教科の枠を超えて解決策を考える、もしくは実行する。

### 2 現在の課題

#### (1) 高校が抱える課題1（学習意欲）

教員は学校で学ぶことの意義を伝えられないという悩みを抱え、生徒をやる気にさせようと努力する。時には入学試験で合格できないと生徒に迫り、学力を伸ばそうと苦心している。

一方、生徒はなぜ将来使うとは思えない学問を勉強しなくてはいけないのかという疑問を持ちながら、入学試験を意識して学習に取り組む。合格後又は合格する過程で、学力が問われないとわかると、学習しなくなってしまう傾向が強い。

#### (2) 高校が抱える課題2（進路意識）

生徒はこれまで接したことがある職業から進路を選択する傾向があり、時にニーズもない職業を夢見て、上級学校に進学することがある。そのような職業には結果的に就けないことが多い。「～になりたい」だけではなく、実社会を見た上で「～すべきだ」という問題意識を育成する必要がある。

#### (3) 高校が抱える課題3（社会問題への意識）

これからの社会はどうなっていくのかなど、広い社会問題に目を向けることが社会人・職業人として自立する際に必要である。身近な地域社会であれば、生徒もそれを身近な問題として認識することができる。教員だけではなく、多くの地域の方に教育に参加していただくことで教育効果を発揮できると考える。

#### (4) 菊川市が抱える課題

人口流出が著しい静岡県において、市区町でも「地域創生」のために人口減少は深刻な問題である。県外の上級学校に進学した後に、地元に戻らないなど若者の地域離れが進んでいる。また、県の特産である茶業が衰退しつつある現状において、よりお茶を振興する、又は新たな産業を担う人材を求めている。そのような現状を知ってもらうとともに、高校生がどのような考えを持っているのかを知り、市政に反映させていきたい。

## 生徒の現状

- 広い社会の諸問題について認識や問題意識がない
- 学ぶことと社会で生きることのつながりがわからない
- 政治に関わる無関心である

## 生徒の今後(目標)

- 広い社会の諸問題について問題意識を持つ
- 学ぶことで社会にどのように貢献するか意識を持つ
- 市民としての意識を持つ
- 知っている職業の幅が増える

高校のみ  
で生徒を教える  
従来の教育

市(地域)と高校  
で生徒が学ぶ教育

## 小笠高校の目標

- 地域に貢献する人材を育成したい
- 学ぶ意義を生徒に伝えたい
- 社会的・職業的自立を促したい
- 就職の選択肢を広げたい

協定



## 菊川市の目標

- 人口減少を解決したい
- 地元から人材流出する直前の高校生にアプローチしたい
- 産業を活性化させたい

### 3 小笠高等学校の取組

#### (1) 菊川市と「フレンドシップ協定」を締結、学びのフィールドが菊川市内

これらの問題を解決するために菊川市と小笠高校が協定を結んだ。これは高校生が持つ発想力や行動力を生かし活力ある地域社会を創ることや高校生の社会的・職業的な自立を図ることを目的としている。



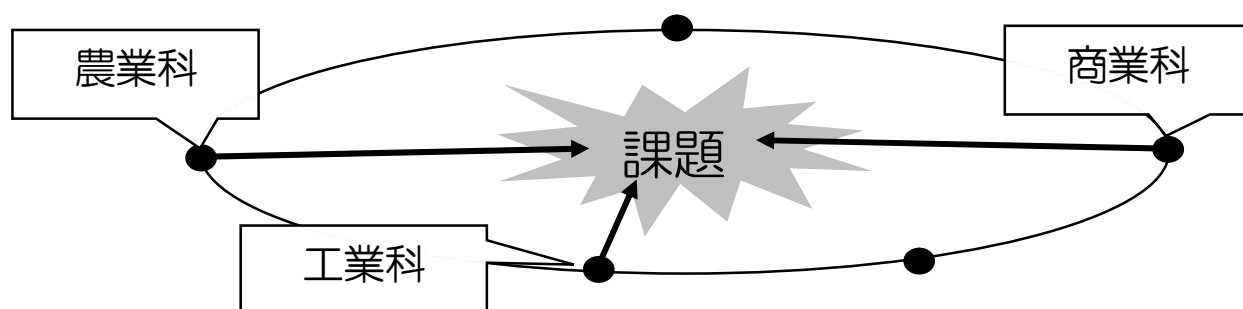
#### (2) 課題研究というカリキュラムで学ぶ

校外に出て行う現地調査などを基本的に課題研究という授業内で実施する。部活動などの活動ではないので、どの生徒にも学ぶ機会を保障している。

#### (3) 農工商の教科の枠を超えた課題解決型学習

総合学科であることを生かし、解決策を教科の枠に囚われないように教科連携型にした。菊川市の課題を農工商それぞれの系列の生徒が、これまで培った知識を生かし解決する。例えば、菊川市では農業を担う人材が不足しており、これを課題だとする。この農業の課題を解決するために、工業的なアプローチをすると、機械化を導入し農作業を自動化することなどができる。また、商業的なアプローチをすると、農産物の生育状況やその価値を消費者や卸売業者に伝える若しくは、流通経路を工夫し、農作物の単価を上げることができる。それをもとに農業に携わる人の給料を上げることができれば、人材不足も解決することができるかもしれない。こう

して解決を図ると学校内で縦割りのように存在している教科の壁は、必要ないことに気づく。これら学習の過程で情報を集め、解決するために試行錯誤する中で、まちの歴史や国語力、科学的な考え方の必要性を感じられればよい。農工商の授業から、他の教科を学ぶことが重要だと認識できれば学習意欲が高められ、上級学校にも学ぶ目的を明確に持ったまま進むことができる。教科統合的に学ぶことで学ぶことの意義が感じられると考える。今回は農工商の連携だが、それ以外の教科にも広げていきたいと考えている。



#### (4) 農業、工業、商業の教員が協力して授業を実施

授業をするのは一教科の教員ではなく、農業、工業、商業の教員が担当する。そうすることで、専門知識を生かし、生徒に助言することができる。商業科の教員では知らない分野でも農業や工業から指導することができる。教員も他教科の内容をお互い学び合うことができる。

#### (5) 生徒が何を調べるか主体的に学ぶ合意形成型学習

これまで本校で実施してきた課題研究は、教員が生徒の先回りをして、段取りを組み授業を実施してきた。年間計画を立て、ここまで実施するという教員の意思による進め方であった。時には、教員の敷いたレールの上で何も考えずに生徒が歩むという例も見られた。今回の課題研究では、ファシリテーションを取り入れ、生徒による合意形成により、どこに行き、何を調べ、どのような解決策を考えるのかは生徒に委ねることにした。自分の意思を班員に伝え、それが調査にどのように影響するかを考えさせる方法で、主体性を養うことを目的としている。



## 4 これまでの活動

### (1) ファシリテーション研修の実施（2月8日）

この課題研究を始めるにあたり、校内で生徒対象のファシリテーション研修を行い、少人数のグループを構成し、他人の意見を聞くことの重要性を学習した。制限時間内に意見をどんな形でもまとめなくてはならないということや他人の意見により自分の考え方が広がっていくことを体験することができた。



研修では会議ファシリテーター普及協会の小野寺様や牧之原市の市民ファシリテーターの方々の指導のもと有意義な研修になった。

## (2) 菊川市の方から市の課題についての講話（5月12日）

菊川市役所の企画政策課の戸塚様から市の課題である人口流出について、実際には若年層の人口流出が顕著である点、さらに人口減少が市に及ぼす影響、菊川市が東洋経済新報社の調査で「住みよさ」ランキングで上位を得ている点などについて説明があった。

生徒からはショッピングモールや遊ぶところなどがあった方がいい等の意見がでた。



## 5 課題と今後の展望

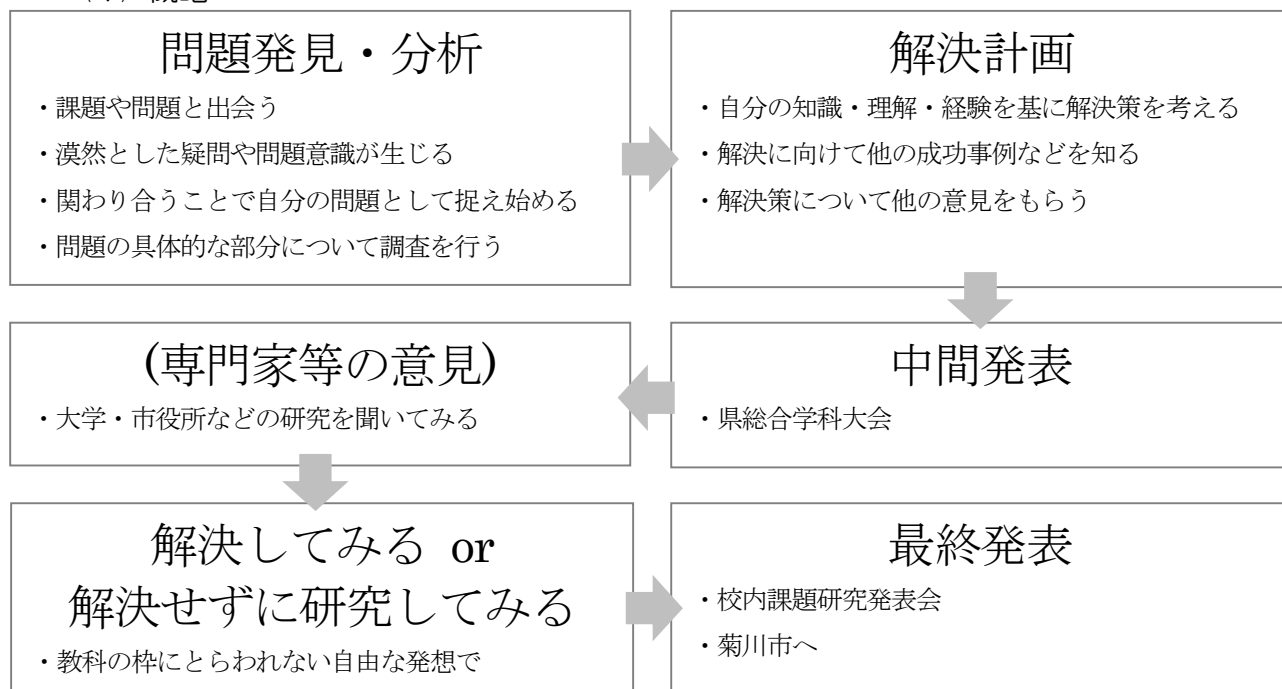
1つの課題として「生徒は自主的・積極的に学ぶことはしない」と考えがちな教員の意識を破る必要がある。どうしたら生徒が行動するのか、どのような働きかけをすればいいのか等、アクティブラーニングの手法を研究していく必要がある。高校生は地域の問題について学ぶ機会や知識が少ない。この状態でどのようなことを考えていくのか、現段階では全く想像できない。

教科連携を図ったが、教科担当の考え方の相違から、連携ができなくなることは避けなければいけない。担当している教員の意見を取り入れ展開していく。

主体的な学びを目標にするため、外部からの講師に依頼しつつ、生徒の反応を見ながら進めていきたいと考えている。

## 6 全体の流れ

### (1) 概略





## (2) 平成28年度の実施計画

## 平成28年度 課題研究予定

日にち	曜日	活動	行事等	内容	備考
4/14	木	1		農工商に分かれ、グループ分け 商・・・人口減少の諸課題について(堀川)	
4/21	木	2		5限:水島先生(概略と人口減少について) 6限:話し合い	・概略で年間計画を生徒に伝える ・宿題配布(身近な人口減少やまちの変化)
4/28	木	3	①遠足	グループワーク 仮提案作成→用紙に個々の考えをまとめる	・解決したい方法別に班を再 結成
5/12	木	4		5限:市役所の方より講話 6限:教員によるグループワーク	・市から高校生に考えてもら いたいこと 菊川市の課題(総合戦略、 市役所の役割)
5/26	木	5		・グループワーク(市民団体と?) ・班ごとテーマ(調査目的、方法、わかったこと、 考察)決め	・市民団体は入れるか今後 決める ・テーマに応じ現地調査 先を決定
6/09	木	6		調査の準備	依頼
6/16	木	7		現地調査1 ←-----	
6/23	木	8		調査まとめ1	
7/07	木	9	40分日課	現地調査2 ←-----	
7/14	木	10	40分日課	調査まとめ2と発表準備	・調査1と2をまとめ考察する ・模造紙かどこでもシートにま とめる ・～の話を詳しく知りたいと いったことも発表に加える
7/21	木	11	40分日課	校内中間発表(8/25の代表決定) ※代表は発表前に要準備	依頼
8/25	木	発	県総合学科大会	中間発表@裾野市市民文化センター(代表)	2年次生も参加をさせ、次年度 への引継ぎとする
9/01	木	12		類似の事例調査・活用できるものの考察	
9/08	木	13		類似の事例調査・活用できるものの考察	
9/15	木	14		専門家招聘・講義 ←	3年次就職試験スタート
10/06	木	15	体育大会準備	解決策のプラン作成	
10/13	木	16		解決策のプラン作成	
10/18	火	17	木曜日課	策の実行準備	
10/27	木	18		策の実行準備	
11/10	木	19		策の実行準備	
11/11	金		東海総合学科大会②		
11/17	木	20		実行	
11/24	木	21		実行	
12/01	木	22		実行	
12/15	木	23		プレ校内発表予選各グループ10分	
12/22	木	24	40分日課、集会等	プレ校内発表決勝	
1/12	木	25		振り返り・引継ぎ検討、パネル発表準備	
1/19	木	26		振り返り・引継ぎ検討、パネル発表準備	
1/26	木	発	課題研究発表会	発表	

# 「春野学」

## 静岡県立天竜高等学校春野校舎における「地域学」の取組

### 1 テーマ

天竜地方の人工造林の歴史は古く、伝承によると文明～長享年間（1472～1488年）、春野町犬居の秋葉神社境内のスギ植林が始まりと言われている。

参詣者が熊野方面から苗木をとり寄せ、心願植林によって成立したものである。現在では、春野町の森林は23,200haを有するまでになり、林業は春野町の中心産業になった。学校付近にも整備された森林が多く見られる。

また、春野町には秋葉山本宮秋葉神社がある。この神社の「火伏せの神」は秋葉大権現であり、日本全国に点在する秋葉神社の本宮としても有名である。

このように「森林」や「秋葉神社」は生徒たちにとって身近なものであることから、平成27年度は次の2つのテーマを設定し、1学年の生徒が学習活動に取り組んだ。

**テーマ1. 地域の産業である林業への理解を深めるとともに環境問題について考える。**

**テーマ2. 秋葉神社の火伏せ信仰の特徴と広がりについて学ぶ。**

### 2 天竜高等学校春野校舎の平成27年度の取組と成果

**テーマ1. 地域の産業である林業への理解を深めるとともに環境問題について考える。**

(1) 事前学習「環境問題と森林エネルギー」11月18日(水) 於：春野校舎

「はるの山の楽校」(旧春野山の村)での体験学習を前に、指導員代表 酒井章博氏に来校してもらい、講義を受けた。

この中で、人間1人が1年間に吐き出す二酸化炭素が320kgに上り、これを吸収するのにスギ23本が必要なことを知った。

木は大気中の二酸化炭素を蓄えて成長するため、伐採後に再植林をすれば燃やしても大気への影響はないというカーボンニュートラルについての説明と、人工林を今以上に活用すべきであるという話を聞いた。

また、温室効果ガスの排出量の増大と地球温暖化について学習をするとともに、「木質バイオマス」(木質ペレット)の特徴や活用方法について理解することができた。

生徒は、実際に木質ペレットを手にし、今まで捨てていた木くずがエネルギーとして利用できることに驚いていた。エネルギー問題や環

境問題への関心を高めるとともに、体験学習への意欲を高めた。



【環境事前学習】



【木質ペレット】

## (2) 体験学習 11月19日(木) 於：はるの山の楽校



【伐採体験】

あいにくの雨天のため、林業体験は室内にて杉材の伐採、薪割、木工を実施した。

伐採では、木を倒すために必要な「受け口」と「追い口」という切り込みを入れるところから苦労していた。最初は、のこぎりの使い方に戸惑っていたが、指導員のアドバイスを受けながら徐々に上達していった。

グループで協力して、とても前向きに取り組んでいたため、一本の杉材(丸太)を伐倒したときは、達成感と満足感を得ることができた。

次に斧を用い薪割を体験した。斧は自分だけでなく周りの人に対しても危険があることを知り、振り下し方を慎重に練習した。

最初は、怖がっていたため腰が抜けてしまい斧に力が伝わらなかった。しかし、慣れてくると力強く薪を割ることができ、夢中で作業をする姿が見られた。

最後に木工で三本足の小さなテーブルを製作した。

製品見本を見せていただき説明を受けたときは、とても簡単そうですぐにできると思っていたようである。しかし、実際にやってみると台部分の木を切るだけでも重労働であった。その後の足付け作業でも、台と足の接続部分の大きさを調整するのが難しく何度もナイフで削るなど苦労していた。製作した作品は、見本のようにうまくはできなかったが、自分自身で作ったという思い入れと既製品にはない趣があり満足のいく物となった。



【薪割体験】

これらの体験を通して、地域の産業である林業への理解を深めることができ、森林資源の活用について考えるきっかけとなった。



【木工体験作品】

## テーマ2. 秋葉神社の火伏せ信仰の特徴と広がりについて学ぶ。

### (3) 講義「秋葉神社の歴史」



【秋葉神社上社】

総合的な学習の時間を用いて秋葉神社について、現地見学の事前学習を行った。

秋葉神社の創建時期には諸説があるが、上古より神体山・霊山として仰がれてきた。社伝では和銅2年(709年)に初めて社殿が建立された。

秋葉大権現は、観音様が鳥の中の王と目されている金翅鳥(こんじちょう)、通称「からす天狗」の姿になって世に現れたものとされ、剣の難、火の難、水の難から免れるように(中でも火の難、即ち火災を防ぐ火伏せの神として)昔から

人々に信仰されてきた神様である。

江戸時代までは秋葉権現を祀る秋葉権現社(あきはごんげんのやしろ)と、観世音菩薩(かんぜおんぼさつ)を本尊とする秋葉寺(しゅうようじ)とが同じ境内にある神仏混淆(しんぶつこんこう)の山だった。

1868年(明治元年)に明治政府によって神仏分離令が、1872年(明治5年)には修験宗廃止令が強行され、秋葉山も神仏分離を行うこととなった。秋葉山を神道の秋葉大権現と仏教の秋葉寺に分離し、更に秋葉大権現を秋葉神社と改称した。翌1873年(明治6年)、秋葉寺は無住無檀という理由で廃寺となるが、秋葉寺の廃寺に伴い、三尺坊は萬松山可睡斎(静岡県袋井市)に遷座された。全国各地の分社もそれぞれの土地の事情で神仏分離令に従い、神社または寺として独立の道を歩むこととなった。

生徒の中には、身近にある秋葉神社の詳しい歴史を初めて知ったという者もいて、興味深く話を聞いていた。

#### (4)現地見学 11月20日(金)

##### ア 秋葉神社下社(浜松市天竜区春野町)

1943年(昭和18年)、山頂(上社、かみしゃ)は、山麓から発生した山火事の類焼により本殿東側の山門を除く建物全てを焼失した。戦中戦後は再建も容易ではなく、山麓に下社を造営し祭祀を継続した。

地域に古くから残る「火伏せ信仰」について学ぶために、全国に分布する「火伏せ信仰」の中心である「秋葉神社(下社)」を訪れた。事前学習で、「創建が709年、火の幸を恵み、悪火を鎮め、火を司る神」であること、秋葉山本宮秋葉神社として全国から尊敬されていることを学んでいたが、実際に社殿の前に立つことで信仰について各自が考えることができた。生徒の中には、下社は近くにあるが初めて訪れたという者もいて、秋葉神社についての理解を深めることができた。



【秋葉神社下社】



【僧侶から説明を受ける 可睡齋にて】

心の火を抑える意味から、可睡齋が人々の幸福祈願の一大道場であることを知り、感心していた。また、案内の僧侶の解説を熱心に聞き「秋葉信仰・火伏せ信仰」について理解を深めることができた。

##### イ 可睡齋(袋井市)

袋井市にある可睡齋を訪れた。可睡齋は禅宗(曹洞宗)の寺であるが、火伏せの神とあがめられ全国津々浦々に奉祀されている秋葉様の日本唯一の御真体が安置されている「秋葉総本殿三尺坊大権現」の道場でもある。

生徒たちは、「火伏せ」には火難(火災)だけでなく、

##### ウ 静岡天満宮(静岡市)

静岡市の静岡天満宮内にある「火伏観音堂」を訪れた。もともと、多宝院水晶寺に火伏せの神を祀る秋葉神社の分霊が祀られていたが、ここの修験者が静岡天満宮の管理を手伝っていたため、観音様を静岡天満宮にも祀るようになったことを知り、あわせて江戸時代の神仏習合思想と秋葉信仰の広がりについて学ぶことができた。



【静岡天満宮】



【火伏観音堂】

### 3 課題と今後の展望

平成 27 年度の学習活動を振り返ると、生徒がさらに地域の文化や産業等の分野に広げて興味・関心を持つよう動機づけていくこと、フィールドワークをするための時間と交通手段の確保、講師等地域の人々とのつながりをいかに形成していくかが課題として挙げられた。

平成 28 年度も 1 学年の生徒が「春野学」の学習を行う。林業については継続して学習し、その中でエネルギー問題や環境問題について考えていきたい。

また、春野町にある犬居城（静岡県指定史跡）に関する学習も計画しており、学習を進めていく中で、関係する事柄や、生徒の関心が高い内容について探求していきたい。

## フィールドワーク 富士山 参加者感想

- ・僕は、これまでに富士山に登ったことがなかったので、登ってみておどろくことが多かったです。なかでも一番おどろいたのは、火山噴出物がとてもたくさん道に落ちていたことです。何度も大規模な噴火が繰り返してきたことがわかりました。また大沢扇状地の活動もとてもすばらしく、大切に人々の生活に直結することだと思いました。
- ・これまで、富士山は遠くから眺める景色以外の何でもありませんでした。火山としての面も、あまり考えることがありませんでした。しかし今回、火口や扇状地を歩いてみて、生きている地球の姿を実感しました。
- ・今回は晴天でしたので予定通り宝永山の火口まで行けたのでとても良かったです。宝永山の噴火がとても新しいことや、道のところどころに落ちている岩石の名前や性質、規模などとても興味深い話を頂けて良かったです。大沢扇状地ではその成り立ち、とても大きい規模だということ、また、ダムを作ることで少しずつ止めて、緑化も兼ねて植林をしていることなども聞けました。
- ・富士山には、様々な種類の岩石があり、すごいと思いました。宝永噴火口は自分が思っていたものよりも巨大で驚きました。落石多発域には、当たったら恐ろしいほど大きい岩がゴロゴロと転がっていて、もし当たったら怖いなと思いました。大沢川で仕事をする人たちは、さらにその下流の白糸の滝や人々の生活を守っていることでとても意味があることがわかりました。今日は、火山は地形に大きく関係があることがわかりました。

## フィールドワーク 伊豆半島参加者感想

- ・英語が苦手な長文が特に苦手だったけれど、熊野先生の作成したプリントに取り組むのはとてもおもしろかった。小人真人先生の「伊豆の大地の物語」英語版も読んでみたいと思った。鈴木先生のお話の中に自分の知らないこと（西相撲湾断裂説、シロウリガイ、伸張場など）があつてまだまだ勉強不足だなと思った。
- ・フィールドワークでは実際に歩き回り直に見ることで地学の分野をより近くで感じる事ができた。その場でしかわからない地学のおもしろみを見ることができたと思う。他校生との交流で自分から動こうとする積極性やうまく成果を発表しようとする思いが向上したと思う。
- ・身近にある火山についてよく知ることができました。講義だけだと疑問が残ったり、学んだとしてもあまり定着しないと思います。しかし、実際に自分の目で確かめてみることで学んだことをこれからも役立つし興味が増します。今日は貴重な体験ができました。ありがとうございました。
- ・今回も天候が危ぶまれたが、最後は大室山から素晴らしい景色を見ることができ参加できて良かったです。下田高校からも2人来られなくなったのは残念でしたが、2人の男子生徒が参加でき松崎高校での取り組みや、オリンピックチャレンジでがんばっている生徒達の様子を知ることによって刺激され、今後の活動の原動力に結びつけていきたいと思っています。

(件 名)

**3-732 「地域学」推進事業**

(高校教育課)

28 年度当初予算額	事業名	次代を担う人材育成事業 (「地域学」推進事業)	予算額	400 千円
------------	-----	----------------------------	-----	--------

**1 要旨**

## (1) 地域学とは

地域の自然、人、事象などを学ぶことによって、郷土観を確立し、ひいては地域活性化や地域づくりを図っていく学習活動。

## (2) 目的

地域を理解し、地域に貢献する人材を育成するため、伊豆ジオパーク、富士山、浜名湖等、学校周辺地域の特色を生かした学習活動を推進する。

静岡県には、伊豆半島と富士山がある。伊豆半島は日本ジオパークに認定され、数年後には世界ジオパークへの認定を目指しており、富士山は世界文化遺産に登録された。将来の静岡県を担う高校生がこの魅力を再確認し、郷土に今まで以上に誇りを持ち、その魅力を発信していくことをこの事業は支援していく。

## (3) 平成27年度指定校

- ア 伊豆半島ジオパーク (県立伊豆総合高校、県立松崎高校)
- イ 富士山 (県立裾野高校)
- ウ 県西部 (県立天竜高校春野校舎)

**2 平成 28 年度事業計画**

平成 28 年度においては、指定校に係る費用を本事業費からは支出しない。

## (1) 指定校の取組

- ア 授業、特別活動等  
地域の魅力の再確認と発掘
- イ 大学、研究施設との連携  
大学の教員や研究者による講義、実験及びフィールドワークによる学術的な学び
- ウ 部活動、生徒会等  
地域の魅力を広報する方法の検討、教材等の開発

## (2) フィールドワーク

## ア 富士山

開催日 平成28年 8 月 10 日 (水)

内 容 宝永火口及び大沢扇状地等の見学等により、富士山の自然環境及び防災を理解する。



イ 伊豆半島ジオパーク

開催日 平成28年11月13日（日）

内 容 伊豆半島ジオパーク（大室山、城ヶ崎海岸）の見学等により、伊豆半島の特徴的な地形と火山との関係を理解する。

3 平成27年度事業実績（予算額1,100千円）

(1) 指定校の取組

ア 指定校

県立裾野高校（富士山）、県立伊豆総合高校（伊豆半島ジオパーク）、県立松崎高校（伊豆半島ジオパーク）、県立天竜高校春野校舎（春野地区）

イ 事業内容

(ア) 県立裾野高校

- ・富士山、大規模土石流災害等について、講演を行った。
- ・ハザードマップを自作し、近隣企業及び国立青少年の家の展示会に出展した。
- ・岩手宮城内陸地震における大規模地すべり被災地を訪問して、理解を深めた。

(イ) 県立伊豆総合高校

- ・総合学科は、「総合的な学習の時間」及び「産業社会と人間」において、ジオパーク学習及びジオツアーを実施した。
- ・自然科学部は、出前授業及びジオツアーにおいて、講師役を務めた。
- ・生徒会は、修善寺駅前の清掃活動、伊豆市未来づくりセッションへの参加等を行った。

(ウ) 県立松崎高校

- ・伊豆半島ジオパークの世界認定に向けた現地予備審査に参加し、これまでの活動を報告した。
- ・連携型中高一貫教育を行っている3中学校とともに、中高合同ジオパーク学習会を実施した。
- ・西伊豆町一色地区の町内会と協力して保全活動に取り組むとともに、枕状溶岩パンフレット（英語版）を作成して、観光案内所等に配布した。

(エ) 県立天竜高校春野校舎

- ・「総合的な学習の時間」において地域について調べ、地元の文化や産業を知る活動を行った。

(2) フィールドワーク

ア 富士山

開催日 平成27年8月11日（火）

内 容 大沢扇状地等の見学等により、富士山の自然環境及び防災を理解した。  
(参加者 69人)

イ 伊豆半島ジオパーク

開催日 平成27年11月15日（日）

内 容 伊豆半島ジオパーク（大室山、城ヶ崎海岸）の見学等により、伊豆半島の特徴的な地形と火山との関係を理解した。（参加者58人）

#### 4 成果・課題

指定校は大変充実した取組を実践しているが、平成 28 年度以降は継続校に対して予算措置を行わないこととなったため、平成 28 年度は本事業費からの支出指定校本事業費から支出しないこととしたため、指定校に係る費用を本事業費から支出しない。平成 29 年度は、新規校を設定して予算措置を行う必要がある。

フィールドワークについては、天候にも恵まれ、講師の適切な指導により、目的を達成することができた。

<参考：県内公立学校における地域に関する学習状況>

国際人となる第一歩として、自国の歴史・文化等に対する知識と理解を深め、外国に発信できる能力を養うことが必要である。現在、県立高校においては、地域の特色を知り、継承していくことなどを学ぶ教育を、下記のとおり実施している。

(1) 教科・科目等	教科・科目等	内容等
	地理歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界史及び日本史又は地理を必修</li> <li>平成 34 年度以降に日本史と世界史の近現代史を合わせた新しい歴史科目の設置を検討</li> </ul>
	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>三保の松原の松葉（静岡農業）</li> <li>志太の発酵文化（藤枝北）</li> <li>茶草場農法（磐田南）など</li> </ul>
	学校設定科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光資源（熱海）</li> <li>静岡県の文学、伊豆の経済（土肥）</li> <li>伊豆の自然（田方農業）</li> <li>茶文化（静岡農業）、茶業（小笠）</li> <li>木の文化（天竜）</li> <li>森町の伝統工芸（遠江総合）など</li> </ul>
	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>西豆学（松崎）</li> <li>坦庵公に学ぶ（菰山）</li> <li>茶文化探究（小笠）</li> <li>南伊豆ゼミナール（南伊豆分校）など</li> </ul>
(2) 特別活動	項目	内容等
	部活動 （自然科学等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>静岡県における歴史地震（磐田南）</li> <li>佐鳴湖浄化（浜松北）</li> <li>外来生物の拡散（浜松湖東）など</li> </ul>
	部活動 （郷土研究等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土芸能（横須賀など7校）</li> <li>郷土研究（新居など7校）</li> </ul>

(3) 県教育委員会が実施する事業形式の活動	事業名	内容
	「地域学」推進事業 ※学校単位	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 伊豆半島ジオパーク（松崎、伊豆総合）</li> <li>▪ 富士山（裾野）</li> <li>▪ 郷土の環境と食材（春野校舎）</li> </ul>
	フィールドワーク ※生徒参加者を公募	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 富士山（宝永火口、大沢扇状地）</li> <li>▪ 伊豆半島ジオパーク（大室山、城ヶ崎海岸）</li> </ul>
	高校生ひらめき・つなげるプロジェクト表彰校 (アイデア提案・実践部門) (平成 26 年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ The Ocha（ジオ茶）（伊東商業）</li> <li>▪ 沼津夢高架橋（沼津西）</li> <li>▪ ジオパーク活動による地域振興（松崎）</li> <li>▪ 富士宮の特産物「梅ドレッシングの開発」、伝統の白糸とうがらし入り焼きそば開発（富岳館）など</li> </ul>

## 地域協働による景観学習事業 ～松崎高校でのなまこ壁の歴史学習と継承～

### 1 趣 旨

将来の景観形成を担う松崎高校の生徒が、松崎町の貴重な景観資源であるなまこ壁について学習した上で、高校生主体で地域住民の参加を得て、なまこ壁の洗浄作業を実施した。

### 2 内 容

(1) 活動主体 松崎高校の生徒 約 30 名 (生徒会を中心に活動)

(2) 実施時期 平成 28 年 1 月～3 月

(3) 実施体制

県の委託を受けた NPO が、地域のコーディネーター役となり、松崎町役場と松崎町地域おこし協力隊を巻き込んで、高校生の景観学習活動を支援した。

(4) 実施内容

#### ア. 景観資源「なまこ壁」の“学習”

なまこ壁の歴史的背景を知るとともに、時代とともに減少傾向にある現状について学んだ。

今回の取組により参加者の半数がなまこ壁を初めて認知し、学習により松崎町におけるなまこ壁の景観価値を再認識することができた。



なまこ壁の学習の様子

#### イ. なまこ壁洗浄作業の“体験”

実際になまこ壁に触れ、洗浄することで、美しくよみがえるなまこ壁を、高校生が自ら体験をした。

#### ウ. 地域協働によるなまこ壁洗浄作業の“実践”

地域の人々となまこ壁の価値を共有する目的で、高校生が主体となり、なまこ壁の清掃イベントを立ち上げた。

高校生の呼びかけに賛同し、地域住民が参加することで景観形成の輪が広がり、更なる活動が期待される。



### 3 今後について

- ・松崎高校では、松崎町と下田土木事務所の支援により、生徒主体の景観学習を継続し、平成 28 年 10 月に同町で開催される“世界で最も美しい村連合フェスティバル”や静岡県景観賞等での活動報告を目標とする。
- ・地域での景観形成の仕組みづくりには、産学官をつなぐコーディネーターが重要であり、こうしたコーディネーター役を担える NPO 等の団体と連携しながら、景観学習を波及させていく。

第7回 日本ジオパーク全国大会 日本ジオパーク伊豆半島大会  
大会テーマ 連携が生み出す未来

平成28年10月10日

